

# 介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者：女性.90代 要介護 2

利用期間：R5年7月入所～現在利用中

経 過：令和4年5月自宅で転倒、I病院に搬送、人工骨頭挿入術施行となり、継続したリハビリ目的で当施設入所となる。

## 内 容

令和5年5月、自宅で転倒し人工骨頭挿入術施行となり、継続したリハビリ目的で入所されました。当時は他人と一緒にいることを強く嫌がり、離床するのも嫌だと話されていました。足の痛みや腰痛があり、その痛みからか著しい意欲の低下が見られ、何もしたくないという状態でした。

入所当時は足の痛みで一人ではトイレに行く事もできず、移乗は介助、見守り必須という状況で、ベッド上で過ごされている時間が多く、「出来ない」「部屋から出たくない」「おやついらない」など後ろ向きな発言が毎日のように聞かれました。

そのうち、職員の手を借りることに申し訳ない、出来ないことが恥ずかしいと思うようになり、ナースコールを押さずに一人でトイレに行こうとして転倒することもありました。

「迷惑ばかりかけてすみません」と悲観的になっているご利用者と会話をしていたある日、「前みたい(ケガをする前)になりたいわ」「そうね、お家に戻ればいいわね」と本音を聞くことが出来ました。

そこで、ケアマネジャー、ユニット職員、担当リハビリが話し合い、ご利用者が自分の力で出来る事を増やすにはどうしたらよいか考え、何度も意見交換をしました。

はじめは「足が痛いから」「腰が痛いから」と離床を嫌がる事も多く、食事やトイレ以外はすぐ部屋に戻りベッドで横になることが多くありました。

面会時のご家族の励ましやスタッフの声掛けがご利用者の励みになり、意欲的にリハビリを行うようになりました。

ほとんど部屋から出ようとしなかったご利用者も今では、足腰の痛みは聞かれずベッドへの移乗やトイレ、ユニット内の移動は自分で車椅子を自操し安全に移動出来るようになりました。

離床時には進んでタオルたたみをしてくださったり、食後のテーブル拭きも行ってくださるようになりました。席が隣のご利用者とお話をされる様子も見られ、他ご利用者との関わりも増えました。

また、少しずつ自信を取り戻してきたご様子で、レクリエーションにも少し恥ずかしそうではありますが、

参加していただけるようになりました。

今日もご利用者は笑顔で在宅復帰に向けて頑張っています。そんなご利用者を私たちはこれからも  
応援・サポートしていきます。